

12月24日(土)・25日(日)

讃

さん

太

た

SANTA

72-5246



1パック

3,300円 (税込)

西田鮮魚店

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

次回予告

26日(月)毎年恒例特売ぶりを販売いたします。
※8時より整理券を配布いたします。
詳しくは26日の折込広告をご覧ください！

「ハッピーメリークリスマス！」
毎年何度言われているかわかりませんが、その度に思い出す
ちよとしたある日の出来事。

あれは僕が高校生の頃、部活動の吹奏楽に明け暮れ、帰宅
が遅くなったあるクリスマスの日のこと。
僕はいつもと同じ帰路を辿りながら、年末のコンサートの事、
先輩、後輩との練習のやり方等、様々なことを考えていました。
そこにはクリスマスというイベントなど頭になく、自分には縁
のないことだと思っていました。日本人です。その日家に帰る
と、誰かが巻いてくれたであろう手巻き寿司が数本と、手のひ
らサイズのケーキが机の上に置いてありました。巻いてくれた
のは母で、クリスマスプレゼントの代わりにしてくれていたの
です。母は巻き寿司屋で働いており、きっとクリスマスに自分の巻
いた巻き寿司を食べてもらい、喜んで欲しかったのだろうと、祖
母は言い、とても嬉しかったのを覚えています。

その後、母、祖父とコンサートに行くと決めたこと。母
は職場に帰って仕事をしなければなりませんでしたが、その時
だけ帰ってきてくれた母を見て、私はとても嬉しくなり、「手巻
き寿司のことを思い出したよ」と伝えました。そして、「今度、母
さんとコンサートに行くときは、絶対に手巻き寿司のことを思
い出すよ」とお礼を言いました。

西田鮮魚店で作った巻き寿司の盛り合わせがクリスマスに
大切な誰かとの大切な思い出を作るきっかけになれば嬉しいで
す。皆様に素敵なクリスマスが訪れますよう、心からお祈り申
上げます。

西田鮮魚店 長崎 大雅

『手仕事』 ― 清水香のメ縄と地元作家の里山の干支展 ―

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

最初にお詫びから……。12月11日に、この手紙で紹介した『A5宮崎牛すき焼き二段重セット1kg』。私の予測を大きく越えて注文をいただきました。ありがとうございます。しかし、申し訳ないことに、16日の時点で注文をお受けするのを、お断りせざるを得なくなりました。

15日に、五日市店の店長を務める次男の将から電話が入りました。「注文が多すぎて肉が足りん。年末に入って追加するのが難しいんで、残念じゃが注文を受けるのをストップしてほしいんじゃけど。」ということでした。聞けば、270セットもの注文を頂いたとか。1セット1kgだから270kg。すごい量です。「仕方ないのう」と答えるしかありませんでした。申し訳ございませんでした。

26日には毎年恒例の『100本限りのぶりの特売』を実施させていただきます。今年は何もかもが、とんでもない相場になっています。『ぶり』も例外ではありません。私も52年、魚屋をやっていますが、これほどの相場は初めてです。祐宗店長に「今年の特売は無理なんじゃないか」と話しました。「いや、楽しみにしとってのお客さんもおつてんでやります。市場にも100本だけムリを言いました。」その志や良し。但し、お一人一本限定にさせていただきます。26日、朝8時から整理券を配らせていただきます。

プリンセスガーデンで『歳末くじ引き大会』をやっています。その一等賞はぶりです。ぜひ引き当ててください(笑)。今年のくじ引きのテーマは『生活応援』。未来会議で決めました。今年の景品は好評です。ぜひ、くじ引きにも……。

さて、今日はイブ。子どもたちのワクワクは最高潮。明日の朝、目覚めたら枕元にプレゼントが……。私も5人の子を育てましたが、25日の朝の子供たちの興奮ぶりを見たくて、暗いうちから起き出して歓声が聞こえるのを、今か今かと待っていました。今は、悦子と2人の静かな朝です。

26日になるとクリスマスは跡かたもなく消え、正月に向けてまっしぐら。もちろんジョイフルも。

11月の中ごろだったか、『文具のヨシカワ』の吉本さんから私に電話がありました。「寺西さんという方から、プリンセスガーデンで正月に飾る手芸などの展示販売をさせてほしいというお話があったんですけどね」「寺西さんって『絵本牧場ごんぼ』のあの寺西玉実さん?」「そうそう、あの寺西さん」。

30年くらい前、幼い子供たちを連れて、オープン(平成8年8月8日)したての『絵本牧場ごんぼ』に、なんかお邪魔したことがあって、献身的な彼女の子どもたちへの思いに、こんな人もいるんだと驚いたことがありました。「それは、ぜひやってもらいましょう。」即決です。四役会議で話すと倉本部長が「でもプリンセスガーデンは人権擁護のポスター展とか、歳末くじ引きの会場になっていますからね。」しばらく思案して、「西上さんのとこ、案内所の前がいいんじゃないですか。あそこの方が人通りも多いし目立ちますよ」西上さんも賛成。「じゃあ、それでいいか聞いてみましょう。」

『第20回 手仕事 里山の干支展』 12月16日～1月5日。これが良いんです、雰囲気。いつもは、カープのグッズを売っているところに、大きな平台が二つ。そこに干支のうさぎの人形やら置き物やら。みんな手作り。温かいですよね。温もりがあるんですよね。もう、ジョイフルにぴったりです。できれば、ずっとやっていて欲しいくらい。

県北の作家のみなさんが8名。ちょっと紹介しておきます。(敬称略)

- ・向井 慶子(木の実アート 布野)
- ・田村かおり(消しゴムはんこ 香面堂 西本町)
- ・小山 みわ(三日市貼り子 川北)
- ・桑田 信也(Woody Plus 三良坂)
- ・森江 綾香(布細工 めだかの学校 吉舎)
- ・ふれあい共同作業所くちわ(組み木)
- ・清水 啓子(とんぼ玉 Room of keiko 口和)
- ・寺西 玉実(古布絵・紙粘土 ふくろう工房 山内)

他にも岡山や広島からも出展していらっしやいます。不器用で、釘を打てば曲がり、のこを引くと斜めになり、色を塗るとまだらになり、悦子から、「もういいから……。」と言われてしまう私ですが、いや、だからこそかもしれません。ここに展示されている作品の細やかな仕事ぶりが伝わってきます。

因みに私は小山さんの、うさぎがだるまをおんぶしている貼り子を買いました。なんか、ホッとして。



小山 みわ 作『おんぶ』

別の日、小森館長から私に「清水さんに、メ飾りを買ってもらおうと思うんですが」と相談がありました。

年の瀬の歳時記に『メ縄・メ飾り』は欠かせません。「そりゃあいいで、いつ?」「聞いてみます」。「12月25日の日曜日ならいいそうです。」決定。ありがとうございます。年末らしくなる。

清水さんは、以前、鮮コーポレーションで企画室長を務めてくれたいた清水香さん。

フラワーコーディネーターの資格をもち、鮮コーポレーションの店のディスプレイは、ほぼ彼女。華やかに飾りつけてくれました。もって生まれたセンスです。

本部が広島に移るのに合わせて退職。自分で『アトリエ・プリユス・ボタニカル』(ネットで調べてみてください)。おしやれですよ」という会社を立ち上げて『三日の市』にも出店してくれています。

来年90才になられるお父さんが、農業を営まれ、『メ縄』を作り続けていらっしやるので、お父さんから技術を伝承、彼女も『メ縄・メ飾り』作りをしています。ワークショップで作り方を教えてもいるくらい。

清水さんに聞いて初めて知った話。メ縄に使う『わら』は、普通の稲では短いので、古代米を育てるそう。それを、まだ青い夏に収穫して、穂を取り(しびを抜く)、陽の当たらぬ所に干して乾燥させ、10月、11月の農作業ができない雨の日などに縄をなうのだとか。

「父は年季が入っているから手の皮も厚くていいんですが、私は縄をなつた後は家事もできないくらいになるんですよ」と笑っていました。それくらい力のある、根を詰める縄をなうという作業なのです。

清水さんのお父さんの、昔ながらの伝統的な『メ縄』に対して、清水さんが作る『メ縄』は彼女いわく『トラディショナル・モダンなメ縄』。ご自分のセンスで選んでください。

寺西さんがタイトルにされた『手仕事』という言葉。大切にしたいですね。



藤川 勝美 作『しめ縄飾り(玄関用)』



清水 香 作『しめ縄飾り(神棚用小)』